

2014年度(平成 26年度)学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 4	福山市立鷹取中学校
--------	------	-----------

I 福山市 めざす子ども像

福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子ども

II 中学校区

1 めざす子ども像

学校や地域を愛し、賢く強く生きる子ども 「笑顔であいさつ日本一」

2 児童生徒の現状

○平成25年度広島県「基礎・基本」定着状況調査の通過率〔%〕は次のとおりであり、教科の基礎的・基本的な学習内容は概ね定着している。()内は県平均との差。

鷹 鷹取中：国語 73.4 (+2.7) 数学 70.4 (+1.4) 理科 43.4 (+3.5) 英語 70.2 (-1.9)

霞 霞 小：国語 70.3 (+0.2) 算数 76.1 (+6.3) 理科 63.9 (+2.6)

光 光 小：国語 72.2 (+2.1) 算数 68.0 (-0.8) 理科 60.2 (-1.1)

○「基礎・基本」定着状況調査の質問紙(教科学習への意識調査)の肯定的評価は次のとおり。

- ・「国語授業で、最も伝えたい中心をどこで言うとかかりやすいか考えながら話している」 鷹 52.2% 霞 87.0% 光 69.7%
- ・「算数(数学)授業で、理由を挙げて自分の考えやとき方を説明している。」 鷹 49.6% 霞 80.4% 光 65.2%

○英語調査問題で、「自分の考えや気持ちなどが正しく伝わるように話すこと」の通過率 鷹 69.2%

○校区アンケート結果 全 小1～中3, 前 前期(小1～小4), 中 中期(小5～中1), 後 後期(中2～中3)

- ・「礼儀正しく気持ちの良いあいさつをしている」 前 92.8%, 中 87.8%, 後 90.2%
- ・「トーカーに親と子で話をしている」 全 66%, 「地域が好きです」 前 92.6%, 中 73%, 後 81.3%
- ・「TVの視聴が2時間以内」 前 83%, 中 66%, 後 69%, 「家庭学習を目標時間している」 前 93%, 中 71%, 後 73%

○不登校児童生徒数(割合) 鷹 3人(0.9%), 霞 2人(0.7%), 光 3人(0.8%)

○新体力テストの県平均以上の種目の割合 鷹 100%, 霞 77%, 光 77%

3 課題

- (1) 既習内容を活用したり、他の文章や資料と比較したりしながら論理的に考えていく思考力、結論先行型で根拠を挙げて考えを述べたり、書いたりする表現力が弱い。ノート指導や話し合い活動等の(言語活動)を充実させ、各教科のねらいを達成できる授業改善を行う必要がある。
- (2) 中期(小5～中1)において、家庭・地域との結びつきが薄帯になるとともに、基本的生活習慣の定着が低くなっている。意図的にボランティア活動を仕組むなど道徳的実践の場を設定するとともに、家庭学習の習慣等、鷹取スタンダードの徹底を図る必要がある。

III 自校

1 学校教育目標

夢や目標を持ち、将来に向けて、仲間とともに今を輝かせる生徒の育成

2 経営理念

(1) 中学校区における自校の使命(ミッション)

知・徳・体の調和のとれた生徒の育成、地域が誇りにできる学校

(2) 使命の追求を通じて実現しようとする自校の将来像(ビジョン)

- 整った学習環境のもと落ち着いた雰囲気のある学校
- 生徒が自分の力を精一杯発揮し、生き生きと活動している学校
- 知・徳・体のバランスがとれ、数値的にも高い水準にある学校
- 地域・保護者ととともに活動し、開かれ信頼を得ている学校

3 前年度重点目標と達成状況

前年度重点目標	達成状況
(知) 授業改善と学力向上	・教科の基礎は概ね定着しているが、思考力・表現力に課題がある。 ・校内ではあいさつができるが、地域へ出ると不十分である。 ・生活習慣は概ね定着しているが、中期での定着が低くなる。
(徳) 道徳的実践力の育成	
(体) 健康的な生活習慣の定着	

4 本年度重点目標と設定理由

重点目標	設定理由
(知) 授業改善と学力向上	・知、徳、体のいずれの重点目標においても成果が表れてきているが、課題も明らかになってきており、継続して取り組む必要があるため。
(徳) 道徳的実践力の育成	
(体) 健康的な生活習慣の定着	

5 前年度の学校関係者評価結果を踏まえた改善点

- ◎短期経営目標の改善方策を、具体的な取組内容として、確実に実行する。
- ◎保護者等に分かりにくい専門用語を用いず、分かりやすい説明に留意して、理解を得る。

※ 評価基準

評価・指標評価	基準	
	基	準
A・a	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた
B・b	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた
C・c	60% 上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた
D・d	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった
E・e	40%未満の達成度	目標を達成できなかった

自己評価(中間)の基準は、10月20日までの計画に対する達成状況とする。

IV 目標・評価項目・指標等の設定と評価

市重点 目 標	年 目	中期経営目標	重 点	分類	短期経営目標	評価 (最終)	評価項目・指標等 (△成果 ▽取組み に着目)	指標評価 (最終)	□ 評価項目・指標等 ○ 短期(中期)経営目標 の達成状況 ◎ 改善方策		
確かな学力	2	「県学力学習状況調査」において通過率を県平均以上にする。	★	継続	一貫カリキュラム「ノート指導・発表の仕方」を推進する。	A	△アンケートにより80%の肯定的評価を得る。	a	□児童・生徒アンケート【ノート指導】前期95.4%、中期90.2%、後期69.0%、平均84.8%【発表指導】前期95.3%、中期86.5%、後期66.0%、平均82.6% ○ノート指導・発表指導カリキュラムを元に、共通認識を持って指導を行った。小中合同授業研究も行き、改善策を話し合い実践に生かした。 ◎後期の指導を継続する。		
							▽年1回、「ノートコンクール」を実施し、優秀作品を表彰する。			a	○10月9日の公開研究会でノートの優秀作品を展示した。各教科・各学年で金1名、銀3名、銅6名を表彰した。
							△各教科のノート評価でB以上の生徒の割合を70%以上にする。			a	□1年生76.1%2年生65.4%3年生70.0%平均70.5%である。 ◎教科間や学年間で達成率のバラツキが見られた。ノートの見本を提示し継続して指導を行う。
			継続	家庭学習時間の平均を、1年生80分、2年生90分、3年生120分にする。	B	△弱点補強のための家庭学習プリントを毎日配布し、提出率を85%にする。	b	□家庭学習プリント提出率は1年生77%2年生82%3年生87%、全校平均82%である。 ○家庭学習時間の平均は1年生82.6分2年生80.7分3年生122.3分である。 ◎クラスの集計結果を毎月公開し提出の意識を高める。			
豊かな心	2	「笑顔であいさつ日本一」の目標を意識する。	★	継続	児童会・生徒会を中心とした各種挨拶運動を展開する。	B	△地域アンケートにおいて、「笑顔であいさつをしている」の項目の肯定的評価割合50%以上とする。	b	□「笑顔であいさつしている」の地域の方の評価は、霞小(59.2%)光小(44.4%)鷹取中(29.7%)校区平均44.4%であった。 ◎道徳などで笑顔であいさつをすることの意義や心を育てる取組を行う。		
							△「あいさつ運動」部活生徒の参加率を80%以上とする。			a	□朝のあいさつ運動の部活動の参加率は、約82%となった。 ◎参加するだけでなく、笑顔で気持ちの良いあいさつができるようにしていく。
健やかな体	2	「新体力テスト」において県平均以上にする。		継続	年間を通して体力向上の取組を継続する。	B	△県平均以上の種目の割合を、校区小中学校全体で90%以上とする。	b	□県平均以上の種目 光小89.6%(昨年77%)、霞小85.4%(昨年77%)、鷹取中93.8%(昨年100%) ◎校区で県平均以上の89.6%になった。引き続き、体力向上の取組を行う。		
				継続	「校区スタンダード」の取組を強化する。	B	△生活習慣に関するアンケートで肯定的評価の割合を昨年度(87.0%)よりアップする。	b	□児童・生徒アンケート 肯定的評価4月87.4%、7月85.5%、12月86.3% 平均86.4% ◎継続した取組を行う。		

(管理規則第3条実施要領 別紙様式)

力量ある 教職員	2	9年間を見通した小中一貫教育への参画意識を高める。	継続	計画的な一貫教育に係る研修や主体的な研修を行う。	A	▽国語, 算数・数学, 理科, 英語, 保健体育等, 各種一貫カリキュラムを作成する。	a	□国語, 算数・数学, 理科, 英語, 保健体育のカリキュラムを作成し実施することができた。 ○小中合同教科会を行い, 校区の課題を改善するために9年間で身につける力を確認しカリキュラム化を行うことができた。 ◎今後, 教科のカリキュラムの検証分析を行う。
市民から 信頼される 学校	2	小中一貫教育への理解を深める。	継続	校区教育懇談会等により情報を発信する。	A	▽一貫だより, 学校HP等により月1回以上発信する。	a	□一貫便りは各学期に1回, HPの更新は月2回以上行うことができている。 ◎継続して取組を行う。

※ ゴシック体は中学校区共通